

「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」（案）に関する 市民意見募集の結果について

誰もが「地域の一員」として、相互に多様な在り方を認め合い、つながり、支え合っていくとともに、地域団体、市民活動団体、地域企業、大学等の様々な主体が連携・協働して、地域コミュニティの活性化を推進していくため、「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」（案）の策定に当たり、市民意見募集を行いました。

この度、その実施結果を取りまとめましたので、御報告いたします。

1 市民意見募集の概要

(1) 募集期間

令和3年8月26日（木）～令和3年9月27日（月）

(2) 周知方法

- ア 市民意見募集冊子の配布（市役所案内所、情報公開コーナー、各区役所・支所、市民活動総合センター、いきいき市民活動センター、市内大学及び各市立図書館等）
- イ ホームページ（京都市情報館及び自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト）
- ウ 京都市公式SNS（LINE, Twitter, Facebook），各区役所・支所運用のSNS
- エ 大学生向けアプリ（KYO-DENT），中小企業家同友会ML，NPOML等

(3) 御意見数

意見者数： 112人、意見総数： 145件

(4) 御意見をいただいた方の属性

ア 居住地

京都市内	市内に通勤 又は通学	京都市外	記載なし	合計
92人	14人	4人	2人	112人

イ 年齢

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
1人	19人	14人	26人	11人
60歳代	70歳代	80歳以上	記載なし	合計
17人	18人	1人	5人	112人

(5) 御意見の内訳

(単位：件)

関連する項目	合計
第1章 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの基本的事項	20
第2章 京都市における地域コミュニティの現状と課題	29
第3章 京都市における地域コミュニティ活性化の推進(取組の方向性)	74
第4章 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの推進体制等	2
その他、ビジョン（案）全般について	20
合計	145

2 主な御意見と「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」（案）への反映について

(1) ビジョンに反映するもの

御意見	修正内容
「特に困難な状況におかれている地域」の意味がよく分からぬ。(1件)	基本指針2の取組の方向性のうち、「特に困難な状況におかれている地域については、地域の意向を踏まえ、より踏み込んだ支援を進めます。」を「特に、 <u>地域コミュニティの存続が厳しい地域については、</u> 地域の意向を踏まえ、より踏み込んだ支援を進めます。」に修正
関係人口についても触れるべき。(4件)	推進項目5「多様な主体の連携・協働の促進」のうち、「地域団体と地域で活動するNPOやボランティアグループ等の市民活動団体、福祉団体、大学、地域企業など、あらゆる主体の連携を深める取組を推進します」を「地域団体と地域で活動するNPOやボランティアグループ等の市民活動団体、福祉団体、大学、地域企業、 <u>関係人口</u> など、あらゆる主体の連携を深める取組を推進します。」に修正

(2) 主な御意見

ア 第1章 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの基本的事項

ビジョンの目的・趣旨について、ビジョン（案）の内容に沿った御意見を多くいただいた。

(主な御意見)

- ・ 目指す姿・取組の方向性等として、自治会町内会の加入率ではなく、住民どうしのつながりづくり、地域活動への住民の参加促進という、より本質的な状態を目指していることがこれまでの計画よりも望ましいと感じる。
- ・ 歴史ある地域の多様なコミュニティが、地域の伝統を踏まえ、価値観の違い、

根本的な精神（差別、上下関係、偏見等々）等の課題を解決していくためには若年層との繋がりや、各部団体のリーダーの「寛容さ」が大切である。

- ・ 地域の多様性を踏まえ、特定の価値観によらないビジョンとしてほしい。

イ 第2章 京都市における地域コミュニティの現状と課題

担い手不足など地域コミュニティを取り巻く状況認識に関する御意見や地域団体（自治会・町内会）の運営課題に関する御意見など、ビジョン（案）の内容に沿った御意見を多くいただいた。

また、これから地域コミュニティの在り方に関する御意見もいただいた。

（主な御意見）

【地域のつながりに関するもの】

- ・ 地域住民同士のつながりが「強くない」が過半数というのはあまりよくない。
- ・ 学区内で行われているイベントの参加者やボランティア的役割等、自治連合会や町内会の協力者は限られ高齢化が進み担い手不足を痛感している。
- ・ 様々な事情で自治会に未加入であったり、退会をする人が少なからずいる中、自治会だけで解決の方向を見つけるのが困難になってきている。
- ・ つながりは大切だと思うが、関わりたくないという考え方の人もいる。

【これから地域コミュニティの在り方に関するもの】

- ・ 人口減少と少子高齢化の危機感が薄い。地元住民だけでは地域コミュニティが成り立たないエリアがでてくる。
- ・ 全ての人が地域活動に参加するのは無理があるが、独居老人や子育て世代、生活が困窮している方等、地域とのつながりを「本当に必要としている人」が容易に地域コミュニティに参加、アクセスでき、適切な福祉支援等につなげられる仕組みがあるとよい。
- ・ 現在の社会状況を踏まえ、人口増加や専業主婦が当然であった時代の地域コミュニティの形態が必要なのか、根本的な議論を始めるべきではないか。
- ・ 様々な面で多様性がうたわれる時代において、「一見様お断り」の地域活動ではなく、有事の際には力をあわせられるような、新しい形を見出してほしい。

ウ 第3章 京都市における地域コミュニティ活性化の推進（取組の方向性）

（ア）基本指針1 一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり

地域活動への参加の機会・参加の促進に関して、ビジョンの内容に沿った御意見を多くいただいた。

特に、ICTの活用を進めてほしいといった御意見や、高齢者などICTに不慣れな方への支援が必要という御意見も多くいただいた。

一方、ICTと地域活動の相性は悪いという御意見もあった。

(主な御意見)

【地域活動への参加の機会・参加の促進に関するもの】

- ・ 福祉や防災・防犯以外にも、地蔵盆など誰でも気軽に参加できる機会をつくることが大切だと思う。
- ・ 子どもがいないので〇〇大会などは参加しづらいが、ちょっとしたボランティアなど、小さな地域の活動が見えるようになれば、参加しやすい。
- ・ 共働き世帯や介護が必要な世帯など、すべての人が地域活動に参加するのは無理がある。ライフステージに応じた多様な関わり方があれば、進めてほしい。
- ・ 学生や若者は友達と一緒に地域の行事に参加するきっかけがない。

【ＩＣＴツールの活用に関するもの】

- ・ ＩＣＴツール活用の必要性を感じている。
- ・ ＳＮＳなどを使って地域の情報を共有できるようＩＣＴツールの活用を進めてほしい。
- ・ ＩＣＴツールについては、現在の高齢者の方にとって利用するのはとても難しく、社会全体がデジタル機器を使いこなせるほど支援が行き届いていない。
- ・ 地域活動に求められている役割は、同じ地域に住む人たちが交流を深め、共に協力して生活をするということであり、ＩＣＴと地域活動の相性は悪い。

(イ) 基本指針2 多様な地域の特性に即した地域活動の促進

地域課題の把握・解決や担い手づくりへの支援について、ビジョン（案）に賛同する御意見を多くいただいた。

特に、町内会の高齢化等により運営に不安が多く、まちづくりアドバイザーによる伴走支援を求める意見が多かった。

(主な御意見)

【地域団体の在り方に関するもの】

- ・ 回覧の配布などの作業をデジタル化によって軽減し、地域に本当に必要な課題に取り組んでいくことが必要。
- ・ 地域課題の洗い出しへは、地域住民・各種団体・地域企業（社員等）が話し合い、共通認識を持つ必要がある。
- ・ 時代に即した地域活動の見直しへはぜひ進めてほしい。
- ・ 住民にとって地域団体がどういう形で必要なのか、必要なら住民自らが担える仕組みづくりを。
- ・ 現状のままでいるより、変えることの方が労力が大きい。
- ・ 多様さをモデル化（類型化）し、地域団体が気づき、解決に向けて取り組みやすい事例を紹介するなど、いろいろな段階にある地域団体を取りこぼさないよう考慮いただきたい。

【担い手づくりに関するもの】

- ・ 町内回覧をLINEに変更することにより役員の負担が減る。
- ・ 地域活動になじんでいない人達、今後地域活動を担っていただく人の発掘・育成が重要。
- ・ 町内住民が高齢化しており、将来、町内会が運営していくのかと非常に心配で、もっと若い世代の町内会参加が必要と感じてはいるが、どのようにすればいいかわからず困っているので、役所からの支援を希望する。
- ・ 運営ノウハウを学べる場を市が中心となってサポートしてほしい。
- ・ まちづくりアドバイザーに積極的に関わってもらい、継続して自治会運営していくためのサポートをお願いしたい。

(ウ) 基本指針3 多様な主体の連携・協働の促進

市民活動団体と地域団体との連携や企業の従業員・学生の地域活動への参加の機会・参加の促進に関する御意見など、ビジョン（案）に賛同する御意見を多くいただいた。

団体間の連携については、ハードルの高さを指摘する御意見もいただいた。

(主な御意見)

【市民活動団体と地域団体等との連携に関する御意見】

- ・ まちづくりは、地域住民だけでなく、各種団体、地域の企業・従業員などが一体となって取り組む必要がある。
- ・ 大学や企業、NPO等にもかかわってもらう新しい地域コミュニティ創造の一助となるビジョンとしてほしい。
- ・ 市民団体や企業、大学などと連携するために、マッチングや連携を深める取組を推進していただけるのは大変ありがたい。
- ・ 市民活動団体等と地域団体の成り立ちや構成員が異なることから、連携はたやすくないと考える。

【従業員や学生の地域活動への参加促進に関する御意見】

- ・ 就業者に地域への関心を持つてもらうことは重要な課題であり、就業者が地域活動をしやすいように企業自体も従業員に対して地域活動への参加を促すような意識を持ってもらえるような制度が必要
- ・ 大学と協力し、学生に対し自治会への加入をはじめとする地域活動への参加を積極的に促してもらうことが大切だと思う。

エ その他、ビジョン（案）全般について

（主な御意見）

- ・ 児童から高齢者まで多岐に渡る地域コミュニティをカバーするため、市が横断的に横刺しできる機動的な部署をつくるべき。
- ・ 学区に差異があることが明白なら、その施策は地域課題に対応した的確な対策を進めることが重要。
- ・ 町内会加入を条例で決めるべき。